



安別小學校



台湾生蕃公學校

絵葉書は風光明媚な観光地や名所旧跡をとりあげることが多い。今回、紹介する学校絵葉書は、かつて“帝国”と称していた時期に作られたものである。雪深い地に建つ学校は「安別小學校」。安別は南樺太（現在のサハリン）の間宮海峡に面し、漁業と石炭業が盛んな帝国最北端の町であった。当校は日本人子弟のために建てられた。写真には男性5名女性1名、そして女性は幼児を抱えている姿が見える。積雪と針葉樹に囲まれた情景が、北国であることを知らせてくれる。「台湾生蕃公學校」は、台湾最南端の恒春郡にある「高士拂公學校」。当校は台湾先住民族子弟のための学校で、40名ほどのパイワン族児童と6名の大人が写っている。制服を着た2名は教育にあたった警察官であろう。校舎前庭に植えられているのは肉厚のアロエであろうか、南国らしい光景である。

本館では日本教育史の史資料として、植民地統治下にあった台湾・朝鮮・満州において使用された教科書等を所蔵している。今回紹介したような絵葉書として残る教育関係の写真資料を加え、文献資料のみではとらえきれない当時の具体的な教育の姿を把握し、研究調査する手がかりの一助としたいと考えている。尚、本文中に不適切な表記があるが、歴史的概念用語と考え、そのまま使用した。（しらやなぎひろゆき／教育博物館学芸員）